

S-86-2

挑戦に年齢制限なし！！私が目指す臨床検査技師演題名
専門性と手段と目的

◎渡部宇洋¹⁾ 今枝朋香¹⁾ 市坂一哉¹⁾
京都保健衛生専門学校¹⁾

【背景】

院卒→農業法人→健康食品会社ときて、基礎生物学は習ってきたが人体についてはきちんと勉強してこなかったことに気づく。勉強するなら資格取得を目指してみよう。元々大学院では（魚の）細胞を見ていたこともあり、細胞検査士に興味が向く。細胞検査士になるには臨床検査技師の資格が必要である。

【方法】

そこで臨床検査技師資格をとれる学校を探す。昼間であれば細胞検査士養成コースのある大学もあったが、大学はもう出ているのでよいか、と働きながら通える夜間に決める。就職の際、職歴を語ることもできる。なにせ資格取得時の年齢は35歳。フレッシュで売れない分手堅くいきたい。東京と京都で二校のみ。オープンキャンパスに行ったときの好感度と歴史の長さから京都を選んだ。

【結果】

臨床検査技師から派生する認定資格はかなり多いこ

とを知る。細胞検査士、輸血検査技師、微生物検査技師、そして超音波検査士など。どれも取りたいと思ったけれど流石に無理がある。病院実習の際に試験的に触らせていただいた超音波検査が思いのほか面白い。認定資格をとるためにはかなりの勉強と実践が必要である。どの資格を目指すにしても（または目指さないにしても）臨床検査技師は常に勉強し続けることが重要であると考え。常に技術が革新し続けるため（睡眠医療、内視鏡など）、そして社会構造の変化によって求められる医療の形もかわるため（在宅医療、遠隔医療など）。

【考察】

認定資格を目指して専門的な知識を学び、検査技術を向上させる。それらを生かし人の役に立てる。「勉強する⇔実践する」このサイクルの中に必ず「人の役に立てる」が必要である。これがない場合どんなに素晴らしい勉強も実践もただの自己満足になってしまう。